

新しいアジサイの栽培方法

鎌倉アジサイ同好会 前川英吉

アジサイの栽培を始めて 20 年近くになります。今でも鉢で育てるか、直接路地に植えるか迷うことがあります。それぞれ一長一短があって、展示会で皆に観てもらうことが目的の場合やアジサイがその咲いた時にだけ室内に持ち込んで玄関先やリビング、和室などで楽しみたい場合は鉢栽培となります。一方、路地栽培の場合は植え場所さえ間違わなければ管理は鉢栽培よりは圧倒的に楽でしかも大きく立派に本来の自生状態に近い咲き方をしてくれるでしょう。

私はこれまでに山の中や沢筋で咲くアジサイを見てこのまま鉢で咲かせられればとも思いますが正直なところヤマアジサイはある程度鉢栽培で再現？出来てもガクアジサイやエゾアジサイはある程度大きく育っていることが条件と思われ自生の状態で鉢栽培することはとても難しいと考えています。ちょっと余談ですが、ここ何年か伊豆高原にお住いの平澤さん宅にアジサイ開花時期にお邪魔させて頂いておりますが、広い圃場一面にガクアジサイが地植えされており、その株の大きさと花の見事さには毎年圧倒させられます。一株が約1坪～2坪分あり、花の大きさも色もガクアジサイの鉢栽培では無理だとつくづく感じさせられました。

アジサイを楽しむ方法は幾つかあるとは思いますが、我々アジサイ愛好家はどうしても種類を多く栽培したいという欲望があり、2,3種類を庭先や玄関付近で栽培するのであればガクアジサイでも可能とは思いますが到底それでは満足できないのであります。

前置きが長くなりましたがここでは鉢栽培のヤマアジサイに限ってその管理の方法について最近いろいろ試したことを書いてみたいと思います。



伊豆高原 平澤氏宅ガクアジサイ <磯笛>



<古代紫>



長野県 高山村奥山田 山田牧場に自生するエゾアジサイ無銘種



〈鉢栽培と路地栽培の違い〉

	路地栽培	鉢栽培
広さ（場所）	一株一坪程度 広さが必要	狭くとも可能
水やり	楽	乾きが早く頻繁に
植え替え	殆どなし	2~3年に一回
鑑賞の仕方	自分が移動して観る 展示会用として難しい	鉢を屋内に持ち込み 展示会用に適当
肥料	殆ど無し	適宜に与える
剪定	花後、適当に丸型に刈る	花後、来年度のイメージで剪定する
推奨するアジサイ	エゾアジサイ ガクアジサイ	ヤマアジサイ

1 アジサイ栽培に使う鉢について

さて、最初はアジサイを栽培する鉢について考えてみたいと思います。植物の種類よって使われる鉢が変わることは御存知でしょうが、なぜいろいろな鉢があるかといえば植物の根が乾きやすいか、乾きにくいか、植物が大きくなるか、比較的小さく栽培出来るかで大体決まるでしょう。

これを管理する立場に立って考えた場合は使える鉢に求められる機能や要求として次のことが上げられるでしょう。アジサイの栽培用として細かい点まで思いつくままに考えてみました。

① いつでも簡単に入手ができること

受注生産のような専門店や信用不安？ネット、さらに高額品、稀少品は避けたいものです。近所の園芸店、ホームセンターに常備しているものから選ぶことです。

② 重ね保存、移動が出来ること

アジサイの鉢数が多くなると鉢を保管するのも大変。重ねられて、そのまま持ち運び移動できることが必要です。

③ 割れにくい、壊れにくいこと

焼き物の素焼き鉢、駄温鉢は落下の衝撃で壊れます。

④ 通気性の良いこと

焼き物にうわぐすり処理をした鉢は展示会用としては綺麗ですが通気性は悪く、アジサイの根を痛めやすい。

⑤ 軽いこと

アジサイ管理はトレイを使ってこの中に鉢を5~6鉢入れて面倒をみますが、例えば6鉢入りのトレイともなると重さはかなりのものです。ちょっと、実際に調べてみました。

	これまでの5号 駄温鉢	5号 プラスチック 鉢
1トレイ6鉢入れた場合の重さ	10.1 kg	6 kg

1トレイで4kg以上の差があります。これは鉢に同じ用土を入れ、水やりを充分にした重量です。年齢に関係なく、軽いことに越したことはないです。…この4キログラム差は大きいです。

⑥ 安価なこと

展示会用は別としても普段の管理用であまり高額なのも、ちょっと… 5号鉢で100円前後が適當でしょう。汚れたらゴミとして捨てられます。

⑦ 形が安定していること

鉢を手で持ったときに、鉢の中の用土が動くような柔らかい素材の鉢は根のために不安。

⑧ 断熱性があること

鉢の中に熱がこもるような材質は使用出来ません。

⑨ 片手で2個程度簡単に持てる

鉢の移動に5号鉢であれば一度に両手で4個つかめると作業が非常に効率的です。

⑩ その他、アジサイの植え替え時の効率化を考えた場合に鉢底に置く網や水はけ改善のための鉢底石が無くなればと考えました。

アジサイ用の栽培鉢で考えてみただけでも結構求められる機能はあるものです。まだ有るかも知れませんが、これまでいろいろ試してみた鉢で現在推奨できるものとしては次のスリット型の鉢があげられます。このスリット鉢は最近ホームセンターで販売され、2号～10号?程度まであります。プラスチック製で重ね保存、移動可能。軽くてこれまでの駄温鉢と比較するとかなりの軽量です(前ページ参照)。価格は比較的安く壊れにくいですが、問題の通気性については5号鉢で鉢の側面に縦に6列スリットが開けてあり、空気の流れは良好と思われ、これまで駄温鉢使用では鉢底網が必要でしたが、これは真下に穴が無く逆に盛り上がって水が鉢底に溜まらない形で鉢底網の必要がありません。また、これまで駄温鉢では鉢底石は使っていましたが現在、スリット鉢で鉢底石を入れたものと、入れないものでアジサイの成長を比較して観ています。

余談ですが、プラスチック製スリット鉢は上部が持ち手状になっているので5号鉢であれば一度に両手で4個持つことが出来ます。最近、NHK だったか・・趣味の園芸の番組でこの鉢の成績が良いと推奨していましたが、その時はもっと大型のミカンとかイチジク、柿、ビワが対象でした。といえば園芸店やホームセンターで最近は多く見かけるようになりました。これからアジサイ栽培でもしばらく試してみたいと昨年から始めています。

因みに、2年前から和ランのエビネをこの鉢で栽培したところ開花状態は素晴らしい、それまでのエビネ専用焼き物鉢以上の結果を観ることが出来ました。(下の写真)



スリット型5号鉢（上から見た写真）



鉢植え後トレイに入れた状態



5号の他に4号の縦長、8穴型や3号型



スリット鉢栽培したエビネ
(渡川の幻 高知県産)